

松本地域公共交通利便増進実施計画(エリア一括協定運行事業)

- 松本地域では、**地域公共交通をインフラ**として捉えて、行政が主体となった**路線再編や系統の新設等**を実施。
- また、公募型プロポーザルにより選定した交通事業者との間で締結した協定に基づき、行政が主体的に設定したエリア全体での交通サービスの提供について、市が5年間にわたり負担金(交通サービス購入費)を支出する「**公設民営型**」の**バスネットワーク**に移行。
→官民共創により、**全国初の「エリア一括協定運行事業」を実施し、利便性・持続可能性・生産性の高い公共交通ネットワークへの「リ・デザイン」を実現。**

事業の内容

① 重複路線の整理、長大路線の分割

(空港今井線、松本・島内線、南松本・山形線等)

複数路線が運行する区間について重複を解消。また、長大路線については、路線を分割しつつ、廃止区間の代替手段として、既存路線のルート変更で対応。

② 地域ニーズに応じた増便や系統の新設

(信大横田循環線、山形線、神林ライナー、合庁ライナー等)

通勤通学など地域ニーズに応じて、朝夕時間帯等の増便や系統の新設を実施。

③ 運賃のキャッシュレス化や情報発信の強化(関連事業)

地域内全路線に二次元コード・クレジットカードタッチ決済を導入するほか、GTFS-JPの整備や、県の交通・観光案内アプリ「信州ナビ」を通じたバスの走行位置の発信などを推進する。



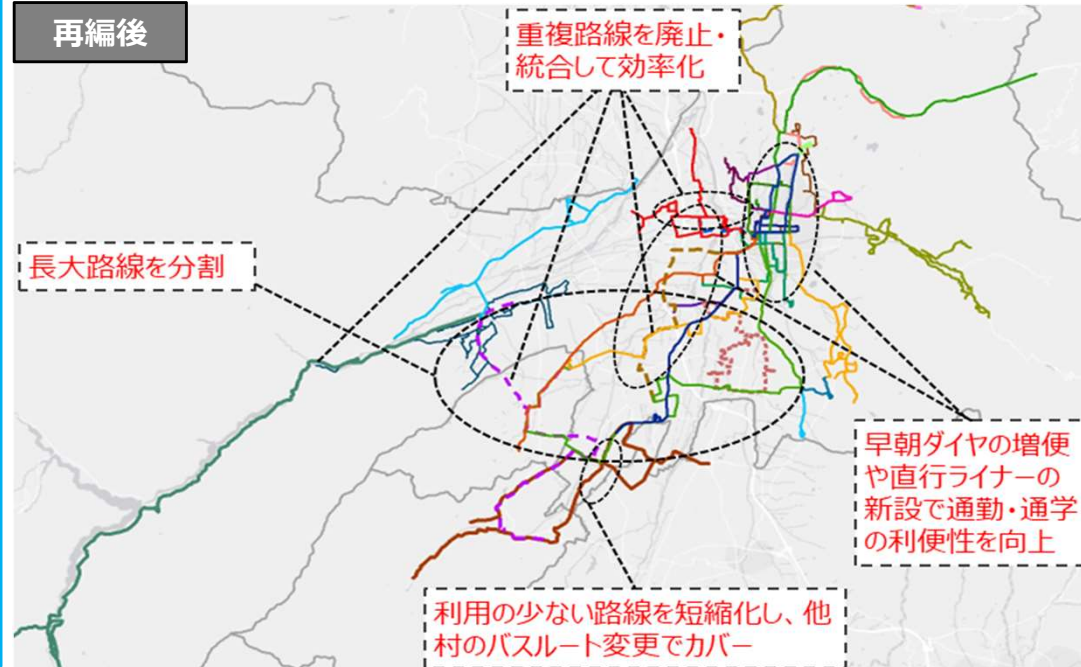
▲「公設民営バス」公式ロゴマーク



▲キャッシュレス機器 (写真は実証時)

- ・作成自治体 長野県松本市、山形村、朝日村
- ・事業実施区域 松本市、山形村、朝日村
- ・事業実施予定期間 R5年10月～R10年9月

再編後



事業の効果

・効率性の向上による持続可能性確保

重複路線の整理や長大路線の分割により、運行の効率化を図り、**持続可能性の向上**に寄与。

・利用ニーズに応じた路線設計による利便性向上

使いやすいダイヤ、系統に見直すほか、キャッシュレス化・情報発信の強化により、観光客を含めた**利用者の利便性を向上**。

ネットワークの中心を担う路線等については、**松本市と交通事業者(アルピコ交通)が締結した協定に基づき、市が複数年にわたって負担金を支出することで、安定的に交通サービスを確保。**行政が主体となり、**エリア全体を見据えた路線設計を実現。**